

「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)」のパブリックコメント(意見募集) 手続き結果について

- 1 意見募集の期間 令和5年1月6日(金)～2月5日(日)
- 2 資料閲覧方法 松戸市公式ホームページ、博物館、行政資料センター、
松戸市民活動サポートセンター、各支所、図書館
- 3 提出方法 持ち込み(1名) メール(4名) ちば電子申請(4名)
- 4 意見提出者数 9名
- 5 意見件数 22件
- 6 回答件数 22件

	項目	No.
1	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標1 松戸ブランド価値創出	1、2、6、11、22
2	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標2 広域的な文化交流拠点の形成	7、11、
3	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標3 新しいファン層の獲得	8、11
4	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	1、5、9、12～22
5	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標5 施設の長寿命化	2、4、5、10、
6	計画スケジュール	3

「博物館リニューアル基本構想・基本計画」(案)に対する市民意見内容及び市の考え方

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
1	P23 P32. 33	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標1 松戸ブランド価値創出 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>・縄文遺跡や出土品は全国に数多くあり、中には国宝級の土器や著名な貝塚、住居跡も見つかっており、松戸の文化財の価値をどうアピールするかに工夫が必要と思わます。「松戸ブランド」という価値を創出するといっても、単なる自己満足に陥ってしまう可能性もあり、そうならないよう収蔵埋蔵品の体系的整理やその展示のあり方にも信頼のおける専門家等の知見を得て新たな視点を加える等の工夫が必要だと思われまます。</p> <p>・「こどもミュージアム」の創設はいいアイデアでありぜひ素晴らしいものにしてほしいと思います。こどもたちが古代から近過去まで松戸の歴史や文化を気軽に体験して学べることは重要であり、そうしたことができるだけの必要かつ十分なスペースが確保されることを期待したい(ご提案の平面図では果たして十分なスペースが確保されるか心配なため)。さらに単にこどもたちが昔のことを知って学べるだけでなく、それが現在にどうつながっており、こどもたちの未来にもどうかかわってくるかを考えることができるようにしていただきたい。</p>	<p>・縄文時代については、堅実な研究成果にもとづく地域性や新たな視点を把握することで「松戸ブランド」へ昇華できるよう努めて参ります。また展示のあり方においても学識経験者の知見などから工夫を凝らした展示を目指して参ります。</p> <p>・こどもミュージアムは、まずはプログラム内容に重きをおいて検討して参りました。その上で限りある空間の活用、また別空間との共用などを模索して、スペースを有効活用する展示プログラムを計画しております。</p> <p>具体的には、定期的な展示アイテムの入れ替えによって展示を固定化せず、常に新しさを持った「こどもミュージアム」として活動することを考えております。</p>	無
2	P45	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標1 松戸ブランド価値創出 事業目標5 施設の長寿命化(アクセスの改善)	<p>既に博物館は展示が充実していたり、常盤平団地の展示がネットで話題になるなど、注目度が高い。また、今回のリニューアル案でも可能性が感じられる。しかし、懸念されるのがアクセスの悪さである。現状、目の前にバス停はあるがとても本数が多いとは言えない。博物館だけでなく、21世紀の森や森のホールにも共通している問題だが、目の前を鉄道が2路線も走っておりながら駅がない勿体なく不便な状況である。リニューアルを機に駅誘致による大幅なアクセス改善を考えたらどうか。武蔵野線も新京成線も丁度2駅の間際に位置しており、どちらも市内外からの来訪客に繋がると思う。</p>	<p>駅誘致については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>常盤平団地の展示につきましては、ICTの活用や他の展示との連携強化など、さらに理解が深まる工夫を凝らしていきます。</p>	無
3	P47	計画スケジュール	<p>計画実施にかかる費用の概算について 計画の47ページにスケジュールが記載されていることからすると、この計画は具体的なものです。費用の概算を計画に明示すべきです。千葉県でしたら、松戸市立博物館の隣にある、県立図書館の整備計画において、概算費用を明記しています。</p>	<p>概算費用の明記については、複数の工事が重なり、長期にわたる工事期間であるため、全体の具体的な金額のお示しは難しい状況です。ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p>	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
4	P43	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標5 施設の長寿命化	小学生の娘を連れて、よく利用しています。計画案には特に記載がなかったように思いますが、昼食をとったり休憩ができるスペースを是非お願いしたいです。コロナの影響は承知していますが、隣接する公園の休憩場所からも離れていますし、博物館内に、例えば外を眺めたりしながら椅子に座って休憩できるスペースがあると、滞在時間も長くとることが出来て、ゆっくり展示物を見ることが出来ると思います。	飲食を含む館内の休憩スペースについては、いただいたご意見を参考にして検討してまいります。	無
5	P32・33 P43	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設 事業目標5 施設の長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもミュージアムなどについて、とてもよく考えられていて、今後に大きく期待をしています。 ・市内保育園や幼稚園との連携については、どのような形で行われるかも楽しみなのと、小さな子どもから、中高生というターゲットは広がりますが、プログラムの運営の中で工夫次第でいろいろな企画が生まれることを楽しみにしています。また乳幼児を連れての来館者がいた場合の授乳スペースやおむつ交換の場(男女ともにトイレや多目的トイレ)なども、ぜひ配慮をしていただきたいです。(特に子どものトイレの補助いすのそばに鍵がついている場合など簡単に開けてしまうことなどがあるので、鍵を2つつけるなどの細かい部分でも配慮をお願いします)親子連れが「来てよかった」と思える配慮のあるリニューアルを期待しています。 	<p>「こどもミュージアム」においては、子どもたちが自ら考え、調べる力を育むことを目的とした歴史体験を用意しております。展示アイテムの入れ替えによって展示を固定化せず、常に新しさを持ったプログラムや企画を行うて参ります。</p> <p>現在、授乳スペースについては正面入口右側に設置し、おむつ交換の場として1階2階女性トイレと2階男性トイレに設置しております。計画では令和6年度に洋式化を含むトイレ整備について設備改修工事を予定しておりますので、いただいたご意見については、配慮に努めて参ります。</p> <p>引き続き、利用者が安全で安心かつ快適に利用できる施設整備を進めていきたいと考えております。</p>	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
6	P24	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標1 松戸ブランド価値創出	p24 第4章 事業目標1 方針2 ICTによる文化財情報の整理・発信 について 松戸市ご当地Vtuber戸定梨香さんが松戸市立博物館のVRツアーを行った動画がありました。せっかくの松戸市立博物館とのコラボなのに、博物館のホームページで紹介されていないのが勿体無いと思いました。リニューアル後にもコラボ企画を期待しています。	いただいたご意見を参考に、新しい情報発信のあり方についても検討して参ります。	無
7	P27	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標2 広域的な文化交流拠点の形成	p27 第4章 事業目標2 方針2 1 文化財へのアクセシビリティ強化 について 常盤平団地ツアーがあると良いと思います。 松戸市立博物館で市外の人にもよく知られているのが、常盤平団地の公団住宅の実物大展示だと思えます。博物館のすぐ近くに、今もそのままの姿で人が住んでいる現物の常盤平団地があるというのは、この上ない財産です。 勿論今も人が住んでいるからこそその配慮は必要ですが、URと団地自治会の協力を得た上で、松戸市立博物館を起点とする常盤平団地ツアーを行えると、団地ファンの需要を喚起できると思います。団地ファンは個人で常盤平団地を訪ねているとはいえ、博物館の実物大展示で再現された住居の中を見学した上で、博物館スタッフによる団地の案内があるのなら、改めて参加したいという人は多いかと思えます。 松戸市立博物館は団地ファンの聖地的な博物館になれるとも思えます。閲覧コーナーに「団地図書館」を設けて、団地に関する様々な本を集めるのも良いかもしれません。松戸市の図書館の蔵書を検索すると団地に関する本は分散所蔵されているようなので、博物館にはない蔵書の一覧があっても良いかもしれません。 UR「まちとくらしのミュージアム」(令和5年9月開館予定)もありますが、松戸市立博物館のすぐ近くに現役の常盤平団地があるという立地はとても大きいと思います。常盤平団地だけでなく、市内の団地を紹介する企画があってもよいかと思えます。	開館以来一貫して注目を集め続けている常盤平団地の展示につきましては、ICTの活用や他の展示との連携強化など、さらに理解が深まる工夫を凝らしていきます。	無
8	P29	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標3 新しいファン層の獲得	p29 第4章 事業目標3 方針1 2 楽しみながら学ぶ松戸の歴史 について 企画展に合わせたワークシートは楽しくて良いと思います。 常設展に関しても複数のテーマでワークシートを用意し、完成したシートを受付に提示すればスタンプが貰えて、スタンプを集めると次回入場券の割引ができるようにするとリピーターが増やせるかもしれません。	展示面積が広い縄文時代と常盤平団地ではそれぞれ学習クイズの冊子をご用意があります。また「松戸デジタルミュージアム」と連動した「クイズスタンプラリー」のQRコードを、展示室内に多数配置しております。これらの運用方法についてのご意見は参考にさせていただきます。	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
9	P35 42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>p35 第4章 事業目標4 方針3</p> <p>1 松戸市立博物館でしか味わえない展示空間 について 常設展を見て「何故松戸にはずっと人が住んでいるのか」が分かるような、地理学的な視点を加えたりリニューアルを期待します。 松戸市立博物館の常設展示の入り口には「人類の発生から常盤平団地の誕生まで」という壮大な物語が掲げられています。これを見て「何故松戸にはずっと人が住んでいるのか」が、この常設展を見れば分かるのだろうかと思いました。 展示を見終えて「松戸は暮らしやすい所だ」ということは伝わってきましたが、残念ながら冒頭の問いに答え切れていないようにも感じました。地理学的な視点に欠けているからかと思いました。</p> <p>「縄文時代の貝塚がある」「戦国時代の城跡がある」「高度成長期に団地が出来た」ということを並べただけでは、市川市と大差ないのかもしれませんが。松戸市を松戸市たらしめるもの、それは松戸市が地理的空間に占める位置と、その地形です。</p> <p>1 縄文海進時の海岸線沿いに貝塚が遺る 2 海水面が下がって低地が出現 3 武士が台頭し下総台地の縁に城がいくつも築かれる 4 水戸道中が通ること、徳川家との様々な縁があること、天領があること、台地には小金牧の設置、新田開発と水運の発達 5 明治維新で小金牧の開拓など台地の利用が進む、戸定邸の建設 6 高度成長期に未利用だった台地に団地が増える</p> <p>松戸市の歴史はこんな感じかと思いますが、この「東京を向いた下総台地の縁」という地理的条件が鍵になっているように思います。縄文の貝塚、戦国時代の城、戸定邸。これら全て下総台地の縁です。 展示物は松戸市のどこのものなのかが分かる地形図がほしいと思いました。松戸市文化財保存活用地域計画(案)p9の図5「松戸市の地形類型」に、展示物の位置をプロットしたもの(同案p44 図54や、同案p100の図66以降のストーリー順の配置図を博物館の展示に合わせたもの)があると良いと思います。冒頭の縄文海進と、最後の「下谷・谷津・台」の地形のジオラマがつながる物語をもっと分かりやすく見せられると思います。協議会には様々な方が参加されていますが、是非一度、市内の中学校などで地理を教えておられる先生方にもお願いして展示を見ていただいて、地理学的な視点での改善点を挙げて貰えたらと思います。 今自分が住んでいるところは昔どう使われていたのか。それが見えると良いなと思います。 「何故松戸にはずっと人が住んでいるのか」という問いが、「松戸にこれからも人が住み続けるには何が必要なのか」という新たな問いを生むことが出来たら、p16に掲げられた「未来を展望するために」という理念が生きてくるのだろうかと思います。</p> <p>p37 第4章 事業目標4 方針3</p> <p>I [旧石器・縄文時代]について 縄文の森だけでなく竪穴住居もそうですが、ARを使って、人々がどう暮らしていたのか、住居内をどう使っていたのかを具体的に表示できるようになると分かりやすくなるのではと考えました。展示物は展示物としてそのまま見られた上で、ARをそこに重ねられると、イラストを傍に展示するのは違った見え方で情報を追加することができると思います。 博物館でのARは、竪穴住居の前でしょうちゃん・もんちゃんと言葉が交わり、画像だけでなく音声ガイドなど様々な使い方が出来ると思います。</p>	<p>計画書のP3「基本的性格」に記載しております。「人類史的視野に立って、松戸を中心とする地域の風土の中で生きた先人の生活と文化を明らかにしてゆく」を強く意識して、当館は設立されました。いただきましたご指摘を加えて、さらに深化させて参ります。</p>	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
			<p>p38 第4章 事業目標4 方針3 II [弥生時代・古墳時代・古代] について >各展示資料が実際に(中略)オンデマンドで閲覧できるようにします これはとても良いと思います。デジタルミュージアムの使いでの向上(年代だけでなくテーマや設定済みのキーワードでの検索など)含め期待しています。</p> <p>p39 第4章 事業目標4 方針3 III[中世] について 「小金城と根木内城」の企画展は見られなかったのですが内容が良かったようなので、こうした形で常設展に追加されるのはとても良いと思います。</p> <p>p40 第4章 事業目標4 方針3 IV[近世]について 松戸と江戸の結びつき、地理的条件だけでなく徳川家が何故松戸と縁があるのか、小金城あたりから戸定邸までの物語を読み解けるようになると面白いと思います。常設展では物理的に難しいかもしれませんが。</p> <p>p41 第4章 事業目標4 方針3 V[近代・現代] について 「下谷・谷津・台」のジオラマはとても良いので、これらが冒頭の縄文海進から繋がっていることを示せるような、より活かせる形でのリニューアルに期待しています。ARを使っても面白いかもしれません。 常盤平団地公団住宅の実物大展示は松戸市立博物館ならではのものなので、リフター導入等でより多くの方に見ていただけるような改良や、博物館で講演を重ねられている60年の生活史を反映した展示になるのはとても良いと思います。博物館での講演はオンラインでも聴講できるようになると、コロナ禍もありなかなか博物館に行けない人にも親しまれて、良い学びの機会になると思います。録画が公開されるとなお良いと思います。</p> <p>高度成長期の住居の再現展示は三重県四日市市の四日市公害と環境未来館(昭和36年の高花平団地の市営住宅)にもありますが、展示内容に松戸市とは土地柄の違いが見て取れました。各地にこうした展示があるのなら、どこが違うのかを探ってみるコラボ企画ができると面白いかもしれません。</p> <p>p42 第4章 事業目標4 方針3 VI [シルクロードコレクション] について シルクロードコレクションは企画展も素晴らしかったので、是非またブラッシュアップした展示で見られることを期待しています。 あとこの案には記載がありませんが、主題展示室の二十世紀梨の原木について、博物館では枯れたとだけ書かれていたように思うのですが、自分で調べてみたら空襲で焼けたことで枯れたらしく。そこまで書いて貰えると、松戸と太平洋戦争について調べるきっかけになるのではとも思いました。世界平和都市宣言を掲げる松戸市には太平洋戦争に関わる史跡もありますが、博物館では紹介がなかったようにも思います。</p>		

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
10	P43	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標5 施設の長寿命化	<p>p43 第4章 事業目標5 方針1 1 快適に過ごせる施設の整備 について</p> <p>以前見学した際、館内に飲料の自販機があると良いと思いました。喫茶コーナーに飲食は限られるとホームページにありますますがその時には人の気配がなく、閉館間際だったので営業終了していたのだらうと思います。ホームページに営業時間の明示がほしいとも思います。家を出て博物館をじっくり見学して博物館前のバス停から乗ったバスを降りるまでの数時間、水分補給が出来ず辛かったです。</p> <p>飲む場所の制限は必要だとしても、博物館を出た後の水分補給のことも考えると自販機で飲料が買えるようになると助かります。松戸らしい飲料が買えればお土産にもなります。</p> <p>オムツも買える自販機なら親子連れにも喜ばれると思います。21世紀の森と広場のパークセンター隣のカフェテラスの裏にもオムツが買える自販機はあるようですが、滞在時間が長くなる博物館にもあっても良いと思います。21世紀の森と広場のガイドマップ等にはオムツが買える自販機の案内がないようなので、こちらの案内もあると良いと思います。</p> <p>喫茶コーナーに関しては、企画展に合わせたメニューを展開するなどの施策もあると良いのかもしれませんが、自販機の飲料よりも魅力的なサービスがあれば、自販機を置いても喫茶コーナーの利用を増やせるだろうとも思います。自販機の飲料を喫茶コーナーで飲む人には、席の利用に時間制限を設けても良いと思います。</p> <p>こまめな水分補給は季節を問わず必要です。冬場には温かな飲料が飲めるよう、自販機の設置をお願いします。</p>	<p>飲料水の自販機は正面入口の外側に設けてあります。ホームページも含め分かりやすい案内に努めて参ります。</p> <p>飲食を含む館内の休憩スペースについては、いただいたご意見を参考にして検討してまいります。</p>	無
11	P23 - P31	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標1 松戸ブランドの価値創出 事業目標2 広域的な文化交流拠点の形成 事業目標3 新しいファン層の獲得	<p>第4章 リニューアル基本計画(方針と取組)</p> <p>1. 事業目標 1 松戸ブランドの価値創出 について</p> <p>2. 事業目標 2 広域的な文化交流拠点の形成 について</p> <p>他市、他県の家族れが訪れてくれるような拠点に。</p> <p>目標指標</p> <p>他市、他県の来館者数、千葉県や首都圏人気博物館ランキングのアップ</p> <p>松戸市には科学館がありません。子どもと科学館へ行くために、埼玉県に行く状況です。</p> <p>是非、松戸市にもプラネタリウムの施設をリニューアル活用した科学館設立を希望しますが、博物館では自然豊かな21世紀の森講演事業と連動し、市民に環境問題や生態系の学習や興味関心を喚起するプログラムをお願いします。</p> <p>「森のホール」では、時代別の楽器、音楽を通して歴史や時代背景の変遷に触れられるプログラムを希望します。</p> <p>3. 事業目標 3 新しいファン層の獲得</p> <p>親子がちょっと「した余暇の時間に行きたくなるような場所になうようお願いします。</p> <p>親子連れの場合は、親の料金を割り引いていただければ、モチベーションあがります。</p> <p>歴史漫画があったり、調べ学習が気軽にできるスペース</p> <p>歴史好きの年配者が集まるサロンがあって気軽に質問したり話せるような。</p> <p>歴史好きの不登校児の居場所になり、好きな話をし合えるような。</p> <p>(3)学校教育施設などとの連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの夏休みの調べ学習を促すコンテストなどを増やす。 ・毎年、 ・地形と歴史、地場産業は深いつながりがあります。 <p>地形(地図)と歴史、産業を連動させ、他教科とのつながりを意識した横断的学習で、総合的な地域の理解が育めるように。</p>	<p>近年の歴史研究(とくに先史時代研究)では、人間活動を理解する上で生態環境との関りが重視されていますので、リニューアル後の展示でも大きく扱います。</p> <p>また、館内の休憩スペースについては、いただいたご意見を参考にして検討してまいります。</p>	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
12	P32 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>4. 事業目標 4 新たな展示空間の創設</p> <p>○事業目標4(1)「こどもミュージアム」の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の外観を子どもが入りやすい、明るく親しみやすくお願いします。 <p>今の外観区物館の、入口は、薄暗く入りたい雰囲気ではありません。 ふらっと立ち寄った人、車で通りすがった人が気になる、入りたくなるような工夫を希望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者が見て通り過ぎるだけの展示ではなく、展示物から何かを発見するとか、時代背景や作品の意義がわかるような働きかけがある仕掛けをお願いします。 ・作品の特徴や見所ポイントを探してもらうような問題用紙を配布するとか。 ・体験型プログラムは少し難しいくらいの方が子どもはチャレンジしたくなります。 <p>一度で飽きてしまうプログラムではなく、挑戦する度、結果が変わるような何度でも挑戦したくなるプログラムが必要です。</p> <p>レプリカの縄文土器の破片を繋ぎ合わせて、復原するプログラムは、目新しくなくつまりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器や弥生式土器を作るくらいの実体験が出来るプログラムを希望します。 <p>また、遺跡や遺物の発掘現場ツアー、発掘体験プログラム。 無理なら館内で常設の化石(レプリカ)の発掘体験コーナーなど、考古学者や歴史研究者の職業体験をするようなプログラムの企画をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館アワード受賞者の発表会 ・親子で探索できる、縄文遺跡めぐりマップ、弥生時代めぐりマップ、中世遺跡めぐりマップなど時代別の歴史的遺産めぐりのサポート教材があれば楽しいです。 	<p>「こどもミュージアム」は、松戸市立博物館を訪れる市民の方々が、最初に出会う展示室です。例えば、公園からアプローチしてきた子ども連れの家族が立ち寄りたくなる明るく楽しさを表したデザインの展示室が必要と考えております。リニューアル工事の際にご意見を参考にいたします。</p> <p>さらに、展示アイテムの入れ替えによって展示を固定化せず、常に新しさを持ったプログラムや企画を行います。子どもたちが自ら考え、調べる力を育むことの下支えをしていきます。</p> <p>ご意見は、今後の展示やプログラムの際の参考とさせていただきます。</p>	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
13	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>湿地・舌状水源・段丘際の特性による城塞集落の見方について 歌川広重作「下総小金原」があります。 野馬生育地・平野・平地の湿地が表現されています。 かつて雨季の低地では、昭和でもぬかるみ足止め、足取りが重くなる場所が多かった松戸市エリア 一方、博物館の企画では「小金城と根本内城」は市民の関心が高かったとのこと地形と遺跡を土台に周囲一帯を城塞と宿場寺町の表現はできないでしょうか？ 地点として中央の牛頭大王鍵型に通る水戸道中と牛頭大王を回り込み北部へ進む本土寺参道くねりながら窪地の根本内城と行人台城の間に下る窪地また博物館著書「松戸市発掘60年史」には ”小金城大手口の通りは北小金駅北口まで…”とありますが残念ながら多くの市民は ”.小金城城郭は歴史公園の敷地”と誤解している市民が多いです。 また小金城大手口から通じるかつて落馬多かつたとされ行人台城と水戸道中を挟んで小金城・根本内城・前ヶ崎の中継地点で地形の際である東雷神社 小金城と東漸寺の間の谷すじ博物館に第二次大戦後米軍機による広域航空写真があります。 小田原と例えたいところですが例えば、大阪城城郭の様に見立てて外堀として江戸川・坂川があり江戸川と小金城の間には水田地帯三ヶ月神社・馬屋敷・殿平賀小金城東側には前ヶ崎と根本内城さらに根本内周囲は富士川と平賀川また史跡として坂川の地形際を活かした千葉屋敷と幸田貝津出土縄文土器・本土寺地下の行人台遺跡の地形の東漸寺小金小学校前の丘陵上排水の土管関さんの森の地形際の際の池小金水道局のある水脈の水量常行院の南側の和尚坂からそばだか神社へくねりながら通じる七曲りまた挟み打ち要素となる各出城・寺と参道・堀切り・窪地「もし武将として小金平賀を攻め込むなら」と挑戦する気を掻き立てる地形都市構造をわかりやすい表現を希望します。</p>	<p>本計画は個別の歴史事象について言及したものではありませんが、展示の内容や表現の仕方や手法などについて、具体的なお意見をいただきました。今後の展示リニューアルにおいて、ご意見は参考とさせていただきます。</p>	無
14	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>幕末の小金宿屯集について 戊午の密勅が起因する 小金宿で起きた水戸藩士と脱藩急進派(天狗党)の 双方の正義を交渉でぶつけ合った出来事を青年達の熱血漢として どちらかの正悪ではなく松戸市エリアでも起きた 青年達の熱い対峙を紹介するのは出来ないでしょうか？ また、千葉道場で切磋琢磨して授業した 小金出身の竹内廉之助と渋沢栄一との関係について取り上げることは出来ないでしょうか？</p>	<p>今後の展示リニューアルにおいて、ご意見は参考とさせていただきます。</p>	無
15	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>”上杉謙信の足跡、時系列順”と”扇谷上杉氏による前ヶ崎の戦から国府台合戦・山内上杉との統合” 小田原城の戦いなどを松戸市エリアでの事柄として表すことは出来ないでしょうか？ 秀吉軍(石田三成)では攻め落とせなかった行田の忍城ですが 上杉謙信による小田原への関東管領受任では忍城は通過され、小金領では和睦(本土寺寺領安堵)となります。 双方の損害を回避するための和睦。双方の使者による小金城での行き来。 過去の遺恨などから緊張感が感じられる出来事だったのでと思います。 出来事を表現されることは出来ないでしょうか？</p>	<p>今後の展示リニューアルにおいて、ご意見は参考とさせていただきます。</p>	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
16	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	地形の勾配・段丘の際・寺社・史跡回避から考察する市内エリアでの常磐線と陸軍線(新京成線)の建設ルートについて 鉄道建設において、建設ルートの選択は重要と思います。 それぞれのルートの曲がりは何によって曲がりが必要だったのか?勾配を調節できたのか? 曲がる場所には理由があります。紹介することは出来ないでしょうか?	今後の展示リニューアルにおいて、ご意見は参考とさせていただきます。	無
17	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	市内における水戸道中(日光街道)と鮮魚街道の機能性と、そのルート選択のちがいについて 湿地が点在していた松戸市エリア、また、房総北西上部の角崎地形。幕府直轄領など それぞれのルートはどのように選択されたのか? 鮮魚街道より松戸納屋河岸から日本橋のどこに止まる岸が指定されていたのか? 角崎形状、水戸道中の複雑な経路など、ご紹介されることは出来ないでしょうか?	今後の展示リニューアルにおいて、ご意見は参考とさせていただきます。	無
18	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案) 城郭の障子掘や達磨口の機能性と機能性の実体験感が感じられない。 小金城築城と落成の経緯がわかりません。 秀吉小田原征伐の際での高城氏領地における秀吉政権体制側の見地者がわかりません。 徳川家臣三河衆による上総・下総の統治の配置と各所史跡との関係性がわかりません。 標石文字”水戸”道中””と”水戸街道”の文字表記の異なりが疑問の市民が多いと思います。 水戸街道と鮮魚街道の道中の地理勾配の違いとルート上の史跡がわかりません。 市内地図による野馬生育がしやすい湿地の河川水面と陸地の違い、 ”ぬかるみ”・”通り道”・”集落地”のそれぞれの利便性による先人の選択がわかりません。 行人台の戦いにおける経緯が房総地図を使用して表現されることを希望します。 小金領・亥鼻・御弓・佐倉など文章だけでは房総上の位置関係が伝わりません。 松戸納屋河岸を中心とした物流と、その先の荷下ろし場など流通の情報がわかりません	今後の展示リニューアルにおいて、ご意見は参考とさせていただきます。	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
19	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	出土物や歴史的エピソードのあった場所のエリアが博物館にて地名表記だけだと地名の場所を知らない人は市内場所位置がわからないままとなり地名の場所へ向かってもしる人に会えないと関心が無駄になってしまう。	展示の表現方法についてのご意見として、今後の展示リニューアルにおいて参考とさせていただきます。	無
20	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	市民の歴史認識・疑問に対しで考察・見解・調査団会・市民情報提供窓口などの窓口紹介してほしい。 また、博物館学芸員の調査・研究・関心をアピールして欲しい。	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。	無
21	P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標4 新たな展示空間の創設	現地の調査現場・出土物レプリカ・ポリグラフを設置しては？ 街角史跡紹介QRコードや、自宅で印刷できるQR(有り・無し)地図を用意しては？ 分析を終えた貯蔵物を出土場所近くで分散保管し現地で展示紹介をされては？ 3Dデータを作成してネット注文でレプリカ販売をされては？	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。	無

NO.	計画書の頁	項目	意見内容	市の考え方	修正有無
22	P23 P34 - P42	第4章リニューアル基本計画(方針と取組み) 事業目標1 松戸ブランドの価値創出 事業目標4 新たな展示空間の創設	<p>全体として総花的「まち興し戦略」が、ここでも書かれているのか！というのが素直な感想です。また、その方針や具体的な取り組みも、どこがどう具体的なのか疑問を持たざるを得ません。これまで、どの地方でも同じことが繰り返されてきました。成功した地域もあったことでしょう、しかしどこも同じなのですから代わり映えのしない結果に終始してきたことは既に周知のことです。一時、成功したかに見えた地域も、単にそういう取り組みの先駆けであったに過ぎず、年を経るごとに色あせてしまったものも数多くあることも、また事実だと思えます。</p> <p>そもそも「松戸ブランド」とはなにか、「松戸ブランドの価値」とはなにかという定義すらできていないのではないかと不安にならざるを得ません。「ブランディング」という言葉を語ることはできますが、具体的に他の地域との差別化を図ることは、これまでの蓄積(歴史と文化?)がない限り難しいと言わざるを得ません。</p> <p>そして、おそらく全国のどの地域も「歴史と文化」が香る「まち」を標榜することになってしまってます。とは言っても、かなりの時間と予算をかけて「基本構想・基本計画」が策定されたのだろうと思います。これらの「基本構想・基本計画」を踏まえて、具体的な展示リニューアルの「基本設計」が行われることと思います。</p> <p>いくつかの実績のある展示業者に、これらの「基本構想・基本計画」が提示され、展示業者からの提案を募ることになるのだろうと思います。</p> <p>ところが展示業者が提案してくるものは空間デザインです。アイソメやパースとして表現されます。それは、それ以外に予算を積算する方法がないからです。そこに展示アイテムとして落とし込まれるコンテンツは決して「基本構想・基本計画」以上のものにはなりません。</p> <p>「何」を「どう」見せるのか、機能と目的の議論が尽くされて、初めてデザインが成り立つのですが、ここがいつもあべこべになってしまうのが現実なのかも知れません。</p> <p>発注側はいつだって、研究者であっても、基本的には展示の素人なのですから。例えば「松戸市立博物館」にも数多くの模型が展示されています。その制作は京都科学と聞いておりますが、すこぶる出来の良い模型だと思えます。そのなかの「河岸模型」は、「まつどデジタルミュージアム」にも、コンテンツとしてアップされています。そこには「ものがたり」が表現されており、この「ものがたり」こそが展示されなければならない「もの」だと考えます。残念ながら、現在の「河岸模型」の展示では、「ものがたり」は展示されていません。これらの「ものがたり」を展示することが大切です。これこそが、展示の「何」をにあたるものだからです。</p>	<p>本計画は個別の歴史事象について言及したものではありませんが、ご意見は参考とさせていただきます。</p> <p>「松戸ブランド」の定義につきましては、計画書のP.5やP.23にありますように、館蔵の貴重・希少な文化財と蓄積されてきた調査・研究成果が出発点となっています。これら文化財の持つ価値や魅力を様々な方法を用いて市内外に発信し、地域の価値を市民の皆さんと一緒に高めていきたいと考えております</p> <p>展示において「ものがたり」性が重要とのご指摘は、展示のリニューアルに際に配慮して参ります。</p>	無